

Overview: キリストを私たちの全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物として享受することの結果は、キリストを平安のささげ物として享受することです。私たちはあらゆることにおいて、私たちの要望を「神に」知らせ、神と語り、神と相談する必要があります。この秘訣を知らない人は、キリストを生きることを難しいことと考えます。実は、あなたは絶えず主と語ることを訓練する必要があります。祈りの中で神と交わることは、神の平安(すなわち、平安としての神)が、私たちの中へと注入されて、私たちの享受となり、私たちが苦悩に対抗させ、思い煩いに対する解毒剤となるということです。私たちは、どのようにしてバイタルグループの召会生活を持つかの秘訣を学ぶ必要があります。召会生活は、宴席の家、すなわち、キリストを平安のささげ物とする宴席です。ここにおいて、キリストと彼を愛する者たちは、安息と満足を持つことができます。私たちが日常生活の中で、また召会生活の中で、キリストを私たちの平安のささげ物として享受することは、新エルサレムにおいて究極的に完成し、究極の平安のささげ物となります。

II. キリストは、神と神の民との間の平安であって、それは彼らが交わりの中で共に享受するためです: A. 平安のささげ物をささげた人は、そのささげ物の頭の上に手を置かなければなりません。これは、ささげる者とささげ物との結合と一体化を表徴します。私たちがキリストとの交わりは、一体化という事柄、すなわち、私たちが彼になり、彼が私たちになるという事柄です。 B. 平安のささげ物は、ルカ第15章23節から24節において、受け入れる父である神と、戻ってきた放蕩息子である罪人との間の、平安に満ちた享受である肥えた子牛によって描写されています。 C. 私たちは、キリストを平安のささげ物として享受する秘訣を学ぶ必要があります。この平安のささげ物は、神の平安であって、人知をはるかに超えています: 1. 私たちは、どのような環境においても、どのような事柄においても、どのようにしてキリストを命とするか、どのようにしてキリストを生きたか、どのようにしてキリストを大きく表現するか、どのようにしてキリストを獲得するかを秘訣を学ぶなければなりません: a. 私たちはあらゆることにおいて、私たちの要望を「神に」知らせ、神と語り、神と相談する必要があります。 b. 「この秘訣を知らない人は、キリストを生きることを難しいことと考えます。実は、あなたは絶えず主と語ることを訓練する必要があります。そうすれば、あなたは自然にキリストを生きるようになります。 c. 祈りの中で神と交わることは、神の平安(すなわち、平安としての神)が、私たちの中へと注入されて、私たちの享受となり、私たちが苦悩に対抗させ、思い煩いに対する解毒剤となるということです。それによって、キリストが私たちの謙虚溫柔さであることを、すべての人に知らせることができます:』 (1) 私たちは祈りの中で神との交わりを通して、主を平安の川として、また慰める母として享受します。(2) 私たちは祈りの中で神との交わりを通して、主を、風を避ける避け所、暴風を避けるおおい、乾いた所にある水の流れ、荒廃した地にある大きな岩の影として享受します。 2. ピリピ第4章5節から9節にある私たちが経験するキリストの美德は、平安としてのキリストを生きた生活の表現です: a. パウロは、謙虚溫柔さと、思い煩いがないことを、キリストを生きた生活の表現の最初の二つの面であると考える。 b. サタンからやって来る思い煩いは、人の生活の総合計であり、キリストを生きた信者の生活を妨げます。神からやって来る謙虚溫柔さは、キリストを生きた生活の総合計です。両者は完全に相反します。

I. キリストを私たちの全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物として享受することの結果は、キリストを平安のささげ物として享受することです: A. 私たちは自分の努力によって平安を持つべきではありません。私たちは自分で平安を持つべきとするほど、ますます平安を持たなくなりますが、平安を持つ唯一の道は、毎日キリストを享受することです。 B. 平安は、私たちがどの程度までキリストを享受しているかを私たちに示す測りです。 C. 私たちは今日、キリストを享受するべきであって、昨日や明日については忘れるべきです。』

3. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです(ピリピ4:5): a. 謙虚溫柔さは、人を取り扱うことにおいて理にかなっていること、思いやりがあること、考慮があることであり、合法的な権利を要求することにおいて厳格でないことです。謙虚溫柔さが意味することは、私たちが容易に満足することであり、私たちの得べきものより少ないものにも満足することです。 b. クリスマスの経験によれば、謙虚溫柔さは、すべてを含むものです。なぜなら、それはクリスマスのすべての美德を含んでいるからです: (1) 謙虚溫柔さは、愛、忍耐、慈愛、へりくだり、同情、思いやりがあること、服従、進んで服することを含んでいます。もし私たちがそのようなすべてを含む美德を持つなら、義と聖も持ちます。』 (2) 謙虚溫柔さはまた、自制、中庸、温和、理解すること、同情、知恵、あわれみ、平和、主を仰ぎ望むこと、さらには主がすべての事において主権を持っていることを認める美德さえも含んでいます。 c. 謙虚溫柔な人は、常に適応する人であり、その人の行為は常に適切なものです。 d. もし私たちが謙虚溫柔であるなら、知恵と能力を持ち、他の人たちに彼らの必要とするものを供給するでしょう。私たちがまた、彼らに対して何を言うべきか、またいつ言うべきかについての十分な知識も持つでしょう。 e. 謙虚溫柔であることは、私たちの行なう事や言う事によって他の人たちがどのような影響を受けるかを考慮することです。 f. 謙虚溫柔さは、すべてを含む美德であり、キリストご自身でもあります。キリストは謙虚溫柔さですから、パウロにとって生きることは、謙虚溫柔さでした: (1) 私たちの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせることは、私たちが生き、また大きく表現するキリストを、すべての人に知らせることです。彼は、私たちが模範とする、また目標として追い求める方です。(2) 主イエスだけが、謙虚溫柔さに満ちた生活をしました。今日、キリストだけが、私たちの完全な謙虚溫柔さになることができます。(3) 私たちの謙虚溫柔さを知らせることは、すべての人性の美德の総合計としてのキリストを表現する生活をするということです。』 g. パウロは謙虚溫柔さについて語ったすぐ後に、主は近いのですと言っています: (1) 空間について言えば、主は私たちに近く、助ける用意ができています。時間について言えば、主は目前であり、すぐに来られます。(2) 主は近いとは、おもに主が私たちと共におられることを言っています。 4. 「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます」(ピリピ4:6-7): a. 「あらゆることにおいて」という言葉は、日ごとに私たちに起こるさまざまな多くの事を指します。 b. 祈りとは、一般的なものであり、礼拝と交わりがその本質です。願い求めとは、特別なものであり、特定の必要のためです。私たちが祈りも願い求めも、主に感謝をささげることを伴っているべきです。 c. 「神に」は、前に向かう動作を表しており、生きた結合と交流の意味があり、交わりを暗示しています。こういうわけで、ここでの「神に」の意味は、「神との交わりの中で」です。 d. 平安の神はキリストの中で、私たちの心と思考の前を巡回し、私たちが平穏で静かな状態に保ちます。正しいクリスマス生活は、平穏、静かさ、平安、落ち着きのある生活です。キリストを生きた生活の第一の面は、静かさです。すなわち、競争、虚栄、つぶやき、論争がなく、互いの議論、争論、争いがありません。 e. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、…知らせなさい」と「あなたがたの要望を…知らせなさい」は、平行しています(ピリピ4:5-6): (1) 私たちは、あらゆる必要、あらゆる要望を神にもたらすことによって、また神と会話することによって、思い煩いを謙虚溫柔さに変えることができます。私たちがただ、自分の必要とするものを神に告げるべきです。すなわち、もし私たちに何か心配や思い煩いがあるなら、ただ神に告げるべきです。(2) 私たちが神に知らせることは、私たちが神へと向かう動作です。そのとき、神が私たちの要望に応える前でさえ、彼の応答は、彼の分与、彼がご自身を私たちとミングリングすることです。神性と人性との実際的なミングリングは、6節に描写されている行き来によって完成されます。 f. もし私たちが思い煩いのない生活をしよとするなら、私たちが認識する必要がある事は、私たちのすべての環境が、良いものであろうと悪いものであろうと、神によって私たちに割り当てられているということです。その目的は、キリストを獲得し、キリストを生きた、キリストを大きく表現するという私たちの運命を成就することです。』

Ⅲ. 私たちは、どのようにしてバイタルグループの召会生活を持つかの秘訣を学ぶ必要があります。召会生活は、宴席の家、すなわち、キリストを平安のささげ物とする宴席です。ここにおいて、キリストと彼を愛する者たちは、安息と満足を持つことができます：
A. この召会生活は、復活の命によって生み出されます。B. この召会生活は、清められた罪人たちで構成されています。
C. この召会生活は、外面的には貧しく、苦悩があります。D. この召会生活は、主の臨在の中で、主と共に宴席を持つ生活です。
E. この召会生活には、兄弟よりも多くの姉妹がいます。
F. この召会生活には、マルタの機能(勤勉に主に仕えること)、ラザロの機能(復活の命について証しすること)、マリアの機能(彼女の絶対的な愛を主に注ぎ出すこと)があります。

第一日 レビ3:1 もし、だれかのささげ物が平安のささげ物の犠牲で、牛の群れから献げるのであれば、雄であれ雌であれ、傷のないものをエホバの御前に献げなければならない。
2 その人はそのささげ物の頭の上に手を置き、それを集会の天幕の入り口でほふらなければならない。そして祭司であるアロンの子たちは、その血を祭壇の上と四つの側面に振りかけなければならない。

第二日 レビ3:8 彼はそのささげ物の頭の上に手を置き、それを集会の天幕の前でほふらなければならない。そしてアロンの子たちは、その血を祭壇の上と四つの側面に振りかけなければならない。

ピリ4:12 私は卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、私は飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。

第三日 イザヤ66:12 …私は彼女に川のように平安を注ぎ、…あなたがたは乳を飲み、わきに抱えられ、ひざの上であやされる。13 母が人を慰めるように、私はあなたがたを慰める。

イザヤ32:2 ひとりの人が、風を避ける避け所、暴風を避けるおおいのようになり、乾いた所にある水の流れるように、荒廃した地にある大きな岩の影のようになる。

第四日 ピリ4:5 あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。8 最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい。

第五日 ピリ4:5 …主は近いのです。6 何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげるとを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。7 そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛してください。

コロサイ3:15 そして、キリストの平安に、あなたがたの心を裁定させなさい。この平安のためあなたがたも、一つからだの中で召されたのです。そして感謝にあふれていなさい。

第六日 ヨハネ12:2 …人々は、イエスのために晚餐を設けた。マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた者の一人であった。3 その時マリアは、…膏油一リヲを取って、イエスの足に塗り、…その家は、膏油の香りで満たされた。

ヨハネ20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、…イエスは来て真ん中に立ち、彼らに「平安があなたがたにあるように」と言われた。

Ⅳ. 私たちが日常生活の中で、また召会生活の中で、キリストを私たちの平安のささげ物として享受することは、新エルサレムにおいて究極的に完成し、究極の平安のささげ物となります：
A. 「エルサレム」は、「平安の土台」を意味します。
B. 新エルサレムは、三一の神が私たちの平安となること、私たちの安全となることです。
C. 新エルサレム全体が、一つの平安の実体となります。

《預言の準備》

経験①: 全焼のささげ物と穀物のささげ物を経験して、キリストを平安として経験する

レビ記でささげ物は特別な順序になっています。まず全焼のささげ物、次に平安のささげ物があります。全焼のささげ物は、私たちが神のために絶対的でなければならないことを表徴し、穀物のささげ物は、キリストが私たちの日ごとの食物であることを示します。私たちが神のために絶対的であり、キリストから養いを得て生きるなら、その結果は平安です。私たちは神に対して、また互いに平安を持ちます。これは、キリストが私たちを満足させるとき、私たちと神との間の平安となられることを意味します。今日私たちはこの平安の中におり、その平安はキリストです。

私たちはキリストから抜け出すとき、平安がありません。もし私たちが平安に欠けているなら、キリストに欠けています。私たちが持つ平安の量は、どれほどキリストを持っているかにかかっています。平安を持つことは、私たちがどの程度までキリストを享受しているかを示す測りです。

召会の人々が平安を持たない理由はありません。私たちは自分の努力によって平安を持つべきではありません。私たちは自分で平安を持つとすればするほど、ますます平安を持たなくなります。平安を持つ唯一の道は、毎日キリストを享受することです。朝私たちはキリストを私たちの全焼のささげ物とし、彼をささげて神を満足させるべきです。そして私たちは彼を日ごとの食物として、その日の特別な必要に応じるべきです。

私たちは今日、キリストを享受するべきであって、昨日や明日については忘れるべきです。昨日は過ぎ去り、また私たちは明日にいません。昨日が過ぎ去っているのだから、私たちのだれもそこにとどまることはできません。昨日が失敗であって成功であって、昨日は過ぎ去ります。クリスチャンとして私たちに明日はありません。ただ今日があるだけです。明日のことに煩わされてはなりません！ 今日を生きなさい！ 今日私たちは何を持っているのでしょうか？ 私たちはキリストを持っています。キリストは今日です。

中高生編

中高生であるあなたにとって、一番重要なことは勉強です。勉強に集中するために、あなたには心の中の平安が大切です。クラスメイトや先生との人間関係で問題を持つと、精神的な状態が不安定になるので勉強に集中できません。しかし主に感謝します。クリスチャンの特権は主の中でいつも喜ぶことであり、主の中でどんな状況でも平安を持つことです。あなたは主の外では平安が無く、主の中で平安を持つことができることを知ってください。なぜならキリストご自身があなたの真の平安であるからです。受験勉強で心が不安になりやすい時でも、主の中で平安を持つことができます。

ヨハネ16:33 私がこれらの事をあなたがたに語ってきたのは、あなたがたが私の中で、平安を持つためである。世にあって、あなたがたには苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に打ち勝っている。

あなたはキリストを平安として経験するために、まず第一に、自分の受験を主にささげてください。世の中の人は自分のために勉強します。しかしあなたは主のために学び、主の証しのために受験勉強に臨んでください。そして自分自身と受験勉強を主にささげるべきです。その次に、あなたは毎朝、御言葉を祈り読みして、キリストを食べてください。その時、御言葉の光の中で照らされた不信仰、違犯、弱さを告白すべきです。例えばあなたはヨハネ16章33節を読んでも、主がサタンとこの世に打ち勝っていることを信じず、主から離れ不安になっています。しかしこの御言葉を祈り読みしているときに、「信仰の小さい者よ、なぜ私の言葉を単純に信じないのか」との主からの語りかけを聞きました。このとき重要なことは、すぐに自分の不信仰、弱さを告白することです。

このようにして、あなたは全焼のささげ物、穀物のささげ物、違犯のためのささげ物としてのキリストを経験し、その結果キリストの平安の中に入ることができます。主の中での平安は環境に左右されないのだから、受験勉強のときもあなたを落ち着かせることができます。あなたがキリストを平安のささげ物として経験して、平安の中で受験勉強に集中することができますように。アーメン！

経験②: 自分の要望を神に知らせることによって、平安の神が護衛して下さる

ピリピ人への手紙第4章6節でパウロは続けて、「何事にも思い煩うことなく」と言います。しばしば悪い知らせを聞くと、私たちは心配し、思い煩いに陥ります。思い煩いはキリストを生きる生活を台無しにします。私たちは思い煩わないで、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、私たちの要望を神に知らせるべきです。そうすれば、神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます(7節)。神の平安は、私たちを心配と思い煩いから救います。

6節でパウロは命じています、「あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい」。「あらゆることにおいて」という言葉は、日ごとに私たちに起こるさまざまな多くの事を指します。主の祝福の下で、多くの積極的な事が起こり、私たちは良い知らせを聞きます。しかしながら、私たちはまた消極的な事を経験し、悪い知らせを聞きます。それにもかかわらず、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、私たちの要望を神に知らせるべきです。祈りとは、一般的なものであり、礼拝と交わりの本質を伴っています。願い求めとは、特別なものであり、特定の必要のためです。パウロが「感謝をささげることを伴う」と言っており、「感謝をささげること」と言っていないのに注意してください。これは、私たちの祈りも願い求めも、主に感謝をささげることを伴っているべきであることを示しています。7節で「護衛する」と訳されたギリシャ語はまた、「歩哨(ほしよ)に立つ」と訳されてよいでしょう。平安の神はキリストの中で、私たちの心と思考の前を巡回したり歩哨に立ったりして、私たちが平穏で静かな状態に保ちます。心は源であり、思考はその結果です。神の平安は、私たちの心と思考の両方を護衛します。

在職青年編

ピリピ4:6 何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。7 そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます。

ビジネス・パーソンであるあなたには、いつも困難があります。このゆえに多くの人は胃痛になったり、うつ病になったりします。しかし私たちには、ピリピ4章6節と7節の祝福があることを感謝します。あなたは必ずこの御言葉の祝福を、実際のビジネス・ライフに適用しなければなりません。そうでないとあなたは銀行の膨大な預金を引き出す術を知らず、貧しい生活を送るような人になってしまいます。霊的な観点から見ると、あなたはこのような愚かな人ではないでしょうか？この例えは、あなたが御言葉を教理として追究するのではなく、御言葉の中の真理を実生活に適用し、祝福にあずかるべきであることを示しています。

この御言葉を実生活に適用するために、あなたはまず神に語りかけてください。そのとき主の前で繕ったり、いい恰好をしようとしたりする必要は一切ありません。ただあなたの要望を神に知らせてください。あなたはこのように祈ることができます、「主イエスよ、業務上のある問題をどのように解決したらいいのかわかりません。私は不安で押し潰されそうです。しかし主に感謝します。私はあなたの御名を呼び求めます。私は失敗して首になるんじゃないかと、いろいろ思い悩むことを忘れて、業務の中であなたを経験したいです。今まで何度も不信仰に陥り、サタンの餌食になってきました。これ以上このような哀れな状況にとどまりたくないのです。お主イエスよ、私を救ってください。苦難の中で平安を経験させてください」。

このように主に語りかけることで、平安の神があなたの心と思考を巡回し、護衛して下さいます。苦難によって押し潰されないために、ビジネス・パーソンには、サイコロジカル・ストレングス(精神的な強さ)が必要です。リー兄弟はパウロのように、真理を真つすぐに語ったので、伝統的な宗教から多くの迫害を受けました。しかし彼は鉄砲の弾が飛び交う中で、主の中で安眠することができたと証しておられました。あなたも主の中で神の平安によって護衛されて、平安を享受し、精神的な強さを持ってビジネス・ライフを過ごすことができますように。ハレルヤ！

信仰のストーリー

1. ここに来て、イエスのこと
はじめて聞いたとき、
言い知れぬ へいあんが
あたたかく ながれた。
くるしみを もはやわすれ
世ぞくから かい放された。
かれらのかおをみて知る、
たしかに かみ居る。
2. かれら言う、かみはわが
すくい、いのちとなる。
見たことも ないけれど
いち度ためしてみよう。
こころから かれに向かい
「おお 主イエス！」とさけびもとむ。
たぐいなき あまき名を
はじめて あじわう。
3. かい放され、あんそく得、
つみのがれ 義とされ、
主にけつ合、主はいのち、
かみに向かって 生きる。
主のなかで栄光、自由あり、
新そうぞう 主とわれいち。
これぞわが 信仰のストーリー
たえなる あいとうた！

信的故事

1. 初次来这里，听他们在说
耶稣的事迹，未曾闻过，
但在我心坎 有新的感受，
莫名的平安 像股暖流；
我几乎忘记 来前的苦恼，
不觉已脱离 俗世的囚牢。
从他们脸上 表露的纯真，
我心暗想： 真的有神！
2. 他們且告訴，神要進我裡，
作生命、救主，若我願意，
我眼未看到，對祂又不知，
只覺得需要，不妨一試；
我就從深處 真心轉向祂，
喊哦，主耶穌！求祂來救拔。
從無一名字 如此甘又美
我享真實， 今仍回味！
3. 脫一身纏累，進入真安息，
不再有定罪，蒙神稱義，
我與主聯合，祂是我生命，
今向神活著，因信得生；
我在基督裡 榮耀又逍遙，
我與祂是一，成為神新造。
哦，這個就是 我信的故事，
美妙之至， 是愛是詩！

The Story of Faith

1. When first I came here, they spoke of Jesus,
Such things I never had heard before,
But in my heart was a new sensation,
Past explanation, such peace and warmth.
My former troubles, all but forgotten,
I left the bondage of earth unconsciously.
I saw their faces, so pure and gen'uine,
My heart said, "Truly God is here!"
2. They said God wanted to get inside me,
My life, my Savior, if I'd allow;
I'd never seen Him, I'd never known Him,
I only knew this: "I need Him now!"
So with a pure heart I turned my being,
Called, "O, Lord Jesus!" Asked Him to save me.
No other name is so sweet, so lovely;
From that day forth, so real to me!
3. No more encumb'rance, true rest I enter,
No condemnation, I'm justified,
Joined to the Savior, my life forever,
I live to God now, by faith have life;
In Christ I glory, in Christ rejoicing,
I'm one with Him, as a new creation,
This is the story of my salvation,
Such wond'rous love, such wond'rous song!